

■ ■ トップレベルのプレーに小中学生も声援

芦別120周年・市制施行60周年記念事業
女子バスケットボールリーグ芦別大会

芦別120周年・市制施行60周年記念事業として、女子バスケットボールリーグ(WJBL)芦別大会が、平成25年12月22日、総合体育館で開催され、富士通レッドウェーブ対デンソーアイリスの試合が行われました。

これは、日本を代表するトップレベルの試合を子どもたちはじめ市民の皆さんに間近で見てもらおう、と北空知

バスケットボール協会などの協力を得て開催したものです。

当日は、芦別市内や滝川市の小学生、中学生による前座試合が生まれ、雰囲気盛り上げるのに一役買いました。その後の公式試合では、華やかな応援合戦が繰り広げられるなど、集まった約800人の観衆は、プロスポーツの醍醐味を堪能していました。



試合前のセレモニーで、芦別市などジュニアの選手が記念撮影

■ ■ 福島県の子どもたちが芦別でスキーなど楽しむ



福島県相馬市の子どもたちが、平成25年12月23日から26日まで芦別市を訪れました。

これは、一昨年夏以来星槎グループが主催する東日本大震災・避難者受け入れ支援事業「北の大地に会いに行こう」の冬期コースとして行われたものです。今回は小中学生男女合わせて19人が参加。全員が初めて芦別市を訪れ

ました。

悪天候の影響で日程が1日短縮となったものの、25日には国設芦別スキー場でスキー体験。ほとんどの子どもたちがスキー初体験とあって、最初は戸惑いを見せる子もいましたが、「真っ白な雪は冷たいけど気持ちいい」と笑顔を見せるなど、芦別での冬休みの一日を満喫した様子でした。

■ ■ バレーボールジュニアキャンプで植田前全日本代表監督が特別指導

中学生のバレーボール技術向上を目的とした第40回ジュニアバレーボールキャンプが1月5日から11日まで総合体育館などを会場に行われました。

キャンプには、道内各地の中学生バレーボールチーム男女合わせて約70チーム、730人が参加しました。

このうち、10日の男子キャンプに

は、前全日本男子代表監督で現在日本バレーボール協会の強化副委員長を務める植田辰哉さんが本市を訪れ、約2時間にわたって、アタックやブロックなどを熱心に指導。「今すぐ技術が完成しなくても、あきらめないうで努力して続けていけば、きっと五輪選手を目指せるようになる」など、参加した中学生を激励しました。



■ ■ 「自覚と責任持ち前進」市内で144人が大人の仲間入り



1月12日、芦別市成人式が青年センター体育館で行われました。新成人は平成5年4月2日から平成6年4月1日生まれの方で、今年の市内の対象者は男女合わせて144人(前年比24人減)。式典にはこのうち108人が出席しました。

式典では、兼好哲哉市教育委員会

委員長と清澤茂宏市長がお祝いの言葉を述べたほか、新成人を代表して片山博也さんと篠永咲紀さんが、「大人としての自覚と責任を持ち、目標を高く掲げながら精進します」と新成人の誓いを述べました。式典後はふれあい広場が開催され、同期生との久々の再会を楽しんでいました。